

研究主題

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

言語部 研究主題

言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくりと評価

第4学年国語科学習指導案

単元名

「感想を比べてみよう『ごんぎつね』」

~~「感動を伝えよう～ぼく・わたしの『ごんぎつね』」(仮)~~

学習材名「ごんぎつね」(光村図書 4年下)

日時：令和4年11月1日(火) 6校時
児童：新宿区立愛日小学校 第4学年1組 41名
指導者：新宿区立愛日小学校 主任教諭 本村 文香

1 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能(1)オ〕
- (2) 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力C(1)エ〕
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力・人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (1)オ)	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	①進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

本校では、毎年進級時に学級編成替えを行っており、本学級は、第4学年進級時に3学級から2学級へと学級減となり、1学級あたりの人数が大幅増になっている学級である。

文学的な文章を読むことにおいては、学習に必要な用語や登場人物の心情や人柄を読み取る力等、基礎的な学習をきちんと積み重ねてきている。今年度学習した「白いぼうし」では、松井さんの気持ちや性格を物語全体から捉えるために、「登場人物の言動」「会話文」「気持ちを表す言葉」に着目したり、場面ごとに比べて読んだりする活動を行った。また、「白いぼうし」の場面全体を通した匂いの表現や色彩表現など、場面の様子や情景を捉える際にも、表現の工夫を確かめながら読み進めてきた。色や匂い、音を表す言葉を手掛かりにすると、場面をより具体的に想像できることに多くの児童が気付いている。しかし、言葉が表す情景を具体的に想像したり、明確には表されていない登場人物の気持ちや考えを想像したりしながら読む力が、まだ十分ではない児童もいる。

「ごんぎつね」は、読みの深さによって、複雑な感情を読者に残す作品である。初読では多くの児童が、撃たれたごんが「かわいそう」という感想をもつと考えられるが、ごんの気持ちの変化を追い、描かれている世界を想像しながら読んでいくことで、作品がもっている雰囲気や印象をより深く理解していくことができる。また、自分の感じた感想が、物語のどのような内容や表現から生み出されているのかを探っていくことで、今後の読書でも内容や表現に心を揺らしながら楽しく読む態度へつなげていけると考えた。読み深めて理解したことを基にして感想をもち、交流してその幅を広げて、読書の楽しさ、想像しながら読む物語の奥深さを感じる経験につながるようにしたい。

本単元を行う前に、国語の学習や言葉に関する意識調査を行った。結果は以下のとおりである。

(令和4年10月13日実施 39名 欠席2名)

質問	児童の回答	人数（割合※小数第1位四捨五入）
①国語の学習は好きですか。 (選択式)	<ul style="list-style-type: none"> ・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない 	<ul style="list-style-type: none"> 16名 (41%) 15名 (38%) 4名 (10%) 4名 (10%)
②国語では、どの学習が好きですか。(いくつに○をつけてもかまいません) (選択式・複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文を読む学習 ・説明文を読む学習 ・スピーチ、話し合い、発表などの話すこと・聞くことの学習 ・文章を書く学習 ・音読の学習 ・言葉についての学習 ・漢字についての学習 	<ul style="list-style-type: none"> 24名 (61%) 9名 (23%) 14名 (36%) 9名 (24%) 8名 (21%) 13名 (33%) 17名 (44%)
③読書は好きですか。 (選択式)	<ul style="list-style-type: none"> ・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない 	<ul style="list-style-type: none"> 25名 (64%) 8名 (21%) 3名 (8%) 3名 (8%)
④物語を読むときに気を付けていることは何ですか。 (記述式・複数回答)	<p><読解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人（登場人物、主人公）の気持ちになって読む。(17) ・気持ちの移り変わり、行動の変化、背景、性格 (4) ・段落、場面の移り変わり。(3) ・時間、場所、登場人物。(3) ・登場人物は何をしているか、言っているか。(2) ・どんな物語か、物語の内容 (2) ・登場人物になりきる ・気持ちが書いてあるところを探して読む。 ・話している人はだれかを確認する。 ・情景を想像する。 ・言葉の意味 ・あらすじを確認する。 	

	<p><音読></p> <ul style="list-style-type: none"> ・句読点。 ・つかかからないようにする。 ・読めない言葉に読み仮名をふって読む。 ・早く読むと内容が入らないので、ゆっくり読んでいる。 <p>(思い付かない・特にない・無回答 0人)</p>
<p>⑤きつねが出てくる話で知っているものは何ですか。 (記述式・複数回答)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごんぎつね」(29人) ・「てぶくろを買いに」(8人) ・「ともだちや」シリーズ(2人) ・「きつねの窓」 ・「キツネくんとツルくん」 ・「狐と鶴のご馳走」 ・「つるばら村の三日月屋」 ・「ルルとララのハロウィン」 ・「かいけつゾロリ」(17人) ・「てぶくろ」(3人) ・「きつねの嫁入り」 ・「きつねのおきゃくさま」 ・「きつねとぶどう」 ・「やつばけずきん」 ・「きつねのパン屋さん」 ・「犬夜叉」(知らない 3人)
<p>⑥これまで読んだお話に出てくる「きつね」はどんな人でしたか。 (記述式・複数回答)</p>	<p><+のイメージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい(8人) ・思いやりがある(2人) ・かわいい(2人) ・面白い(2人) ・勇気がある ・頼れる ・おしゃれ ・いいきつね ・いろいろな人(狐)と付き合っていくのが上手 <p><-だけど+></p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪さばかりしているが、思いやりがある、優しい ・悪いけど、良い ・物をうばうけれど、栗をお礼にあげる <p><-のイメージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずる賢い(7人) ・悪さばかりしている、悪いやつ(4人) ・いたずらばかり、いたずらっ子、いたずら好き(4人) ・怪盗、どろぼう(2人) ・意地悪 ・人をだます ・怖がり ・おっちょこちょい ・ミスをする ・生意気 ・悪いことを考えている ・生き方を間違っってそうなやつ

意識調査の結果から、国語の学習に対し79%の児童が「好き・どちらかといえば好き」と感じている。どのような学習が好きかという質問に対しては、国語の学習を「好きではない・どちらかといえば好きではない」と答えた20%の児童を含め、全員がいずれかの項目に丸を付けていた。このことから、国語の学習を「好きではない」と思っている児童でも学習が楽しいと感じる経験があり、学級全体に意欲的に国語の学習に取り組む雰囲気があることが分かる。

物語を読む時に気を付けていることとしては、時や場所などの基本設定や、登場人物の気持ちを想像して読むことなどが上がっていた。また、登場人物の気持ちや行動の変化、場面の移り変わり、言葉の意味を意識して読むことなども上がっていた。「読む」という質問に対して、音読の仕方を考えた児童もおり、今までの学習を生かして読もうとしていることが分かる。

国語の学習の中では、物語文を読む学習が好きだと感じている児童が学級の半数を超えた。また、62%の児童が2つ以上の学習が好きだとしており、様々な国語の学習について楽しく感じていることが分かる。また、読書が好き、どちらかといえば好きだという児童が85%いる一方で、言葉についての学習が好きだという児童は33%にとどまっている。そこで、本単元では特に言葉に着目させ、その言葉がもつ意味や印象にも着目して読むことにつなげていく。

きつねが出てくる話としては、74%の児童が「ごんぎつね」と書き、次いで「かいけつゾロリ」を書いた児童が多かった。また、「これまで読んだお話出てくる『きつね』はどんな人でしたか。」という設問にも、肯定的な印象をもっている児童も多かった。「ごんぎつね」をすでに読んでいる児童が多く、物語の中できつねが変容していることに気が付いている児童もいることから、本単元でも気持ちの変化に気を付けながら読み進めることができると考える。

本単元では、今までの学習を生かしてごんの思いの変化を読み取ることに加えて、ごんと兵十のすれ違いを場面の移り変わりから読み取っていく。その際には、気持ちを表す直接的な言葉で表されていない心情についても、登場人物の言動や情景描写から読み取っていきたい。また、物語には様々な表現の工夫があることに気が付きつつあるので、自分でも意識しながら探して、物語をより深く読み味わえる力の育成を目指していきたい。

(2) 学習材について (学習材観)

① 「ごんぎつね」

「ひとりぼっちの小ぎつね」と表されているごんは、母を亡くした兵十と同じ「ひとりぼっち」になったと思い、心を寄せていく。償いの行動が、自分のことに気付いてほしいという思いに変わっていくごんだが、兵十の側からは「ぬすつとぎつね」から変化はない。自分の行動が相手に気付かれることはないと思った後も、兵十への贈り物を続けるごん。すれ違うまま、最後に場面を迎え、兵十がごんを撃つという取り返しのつかない事態になって初めて、ごんの行動は兵十に知られることになる。ごんの兵十への思い、すれ違いによる切なさややるせなさが、色彩豊かな情景によって儚く美しく描かれている作品である。

「ひとりぼっち」は、作中に複数回登場するとともに、ごんの行動理由の根幹を成す重要語句である。人物像、ごんと兵十との関係、物語の展開や主題に関わる重要な「キーワード」として扱っていく。登場人物の心情を豊かに想像することができる表現も多く、複合語や指示語、距離を表す語句などにも気を付けて読むことで、ごんの思いの変化を読み取ることができる。また、「1」から「5」の場面まで、ごんの視点で書かれている。登場人物の心情やその変化が、直接的な感情表現ではなく、人物の様子・行動や情景の描写によって語られており、人物の気持ちの変化を想像しながら読む力を育てることができる。「6」場面で初めて兵十に視点が切り替わることで、ここまでの物語が、ごん側からの視点のみで描かれていることが印象付けられる。

作品を読み深めていく際に、様々な表現の工夫への着目は欠かせない。ただ「ごんぎつねを読む」ためではなく、「物語を読む」時に有効な着眼点となることにも気が付けるように、児童の実感に合わせて価値付けながら物語を読み進めていくようにする。友達と共に叙述から心情や状況を想像し、気付きを深めていく楽しさに気付かせ、表現の工夫や語句の効果に興味をもって、言葉を大切にしながら物語を読み深めることができる児童を育てたい。

「小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説国語編」には、「読むこと」における精査・解釈 (文学的な文章) の指導事項として、下のように示されている。

学習指導要領解説 国語編 C (1) エ精査・解釈 (文学的な文章) 指導事項	移り変わり結び付けて具体的に想像するために
第3学年及び第4学年 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。	複数の場面の叙述と結び付けながら、気持ちの変化を見出して想像していく。また、どの叙述とどの叙述とを結び付けるかによっても変化やそのきっかけの捉え方が異なり、多様に想像を広げて読むことができる。

中心人物ごんの行動とその理由を具体的に想像するために着目すべき叙述を以下のように整理した。

場面	ごんの心情を想像できる言動	着目させたい視点 色：着目させたい色彩表現 音：着目させたい音響表現 兵：兵十の様子や言動 他：その他
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりぼっちの小ぎつね ・しだのいっばいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。 ・夜でも昼でも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりしました。 ・いもをほり散らしたり、菜種がらのほしてあるのへ火をつけたり、とんがらしをむしり取っていたり、いろんなことをしました。 ・あなの中にしゃがんでいました。 ・ほっとしてあなからはい出ました。 ・見つからないように、そうっと ・びよいと草の中から飛び出して、びくのそばへかけつけました。 ・ちょいと、いたずらがしたくなったのです。 ・びっくりして飛び上がりました。 ・そのまま横っ飛びに飛び出して、一生けんめい 	<p>他：これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。 (指示語・語り手)</p> <p>他：わたしたちの村の中山というところに、～中山様というおとの様がおられたそうです。(伝聞)</p> <p>他：空はからっと晴れて 音：もずの音がキンキンひびいて 他：雨のしずくが光って 他：水がどっとまして 色：黄色くにごった水の中に 色：ぼろぼろの黒い着物 色：白いものがきらきら光って 音：トボンと音を立てながら 音：うなぎは、キュッといて 兵：「うわあ、ぬすつとぎつねめ。」と、どなり</p>

	<p>ににげていきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんはほっとして、～やっど外して、あなの外の草の葉の上におきました。 	<p>たてました。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・お百姓のうちのうらを通りかかり ・六地藏さんのかげにかくれて ・ごんはのび上がって見ました。 ・「ははん、死んだのは、兵十のおっかあだ。」 ・「言ったにちがいない。」 ・「死んじゃったにちがいない。」 ・「ああ、うなぎが食べたいと思いながら死んだんだろう。」 ・「ちよっ、あんないたずらをしなけりゃよかった」 	<p>色：お歯黒を付けて</p> <p>色：赤いいどのある</p> <p>色：いいお天気で、遠く向こうには、お城の屋根がわらが光って</p> <p>色：ひがん花が、赤いきれのようにさき続いて</p> <p>音：村の方から、カーン、カーンと、かねが鳴って</p> <p>色：白い着物を着たそうれつの者たち</p> <p>音：話し声も近くなり</p> <p>色：ひがん花がふみ折られていました。</p> <p>色：白いかみしもを着けて</p> <p>色：いつもは、赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、今日は何だかしおれて</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」 ・こちらの物置の後ろから ・いわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。 ・うちの中へいわしを投げこんで、あなへ向かってかけもどりました。 ・とちゅうの坂の上でふり返ってみますと ・うなぎのつぐないに、まず一ついいことをした ・次の日には、ごんは山でくりをどっさり拾って、それをかかえて ・うら口からのぞいてみますと ・これはしまった ・「かわいそうに」 ・「あんなきずまで」 ・そっと物置の方へ回って、～くりを置いて ・次の日も、その次の日も、くりを拾っては、兵十のうちへ持って来てやりました。 ・その次の日には、くりばかりでなく、松たけも 	<p>色：赤いいどのところで</p> <p>兵：おっかあが死んでしまっは、もうひとりぼっちでした。</p> <p>他：こちらの物置の後ろから（指示語）</p> <p>音：どこかで、いわしを売る声がします。</p> <p>音：いせいのいい声</p> <p>色：ぴかぴか光るいわしを</p> <p>兵：「いわしなんかを」</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ぶらぶら遊びに出かけました。 ・道のかた側にかくれて、じっとしていました。 ・二人の後をつけていきました。 ・ごんはびくっとして、小さくなって立ち止まりました。 ・いどのそばにしゃがんでいました。 	<p>他：月のいいばんでした。</p> <p>音：チンチロリン、チンチロリンと、松虫が鳴いています。</p> <p>音：話し声は、だんだん近くなりました。</p> <p>音：ポンポンポンと、木魚の音がしています。</p> <p>色：まどのしょうじに明かりが差していて</p> <p>音：おきょうを読む声が聞こえてきました。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・井戸のそばにしゃがんでいました。 ・二人の話を聞こうと思って、ついていきました。兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。 ・「へえ、こいつはつまらないな。」 ・「おれがくりや松たけを持って行ってやるのに、神様にお礼を言うんじゃあ、おれは引き合わないなあ。」 	<p>兵：兵十と加助は、またいっしょに帰っていきます。</p> <p>兵：「きつと、そりゃあ、神様のしわざだぞ。」</p> <p>兵：「人間じゃない、神様だ。」</p> <p>兵：「毎日、神様にお礼を言うがいいよ。」</p> <p>兵：「うん。」</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・その明るる日も 	<p>兵：そのとき兵十は、ふと顔を上げました。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・うちのうら口から、こっそり中へ入りました。 ・ばたりとたおれました。 ・土間にくりが固めておいてある ・ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました 	<p>兵：きつねがうちの中へ</p> <p>兵：こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしに来たな。</p> <p>音：足音をしのばせて近づいて、今、戸口を出ようとするごんを、ドンとうちました。</p> <p>兵：かけよってきました。うちの中を見ると、</p> <p>兵：びっくりして、ごんに目を落としました。</p> <p>兵：「ごん、おまいだったのか。いつも、くりをくれたのは。」</p> <p>兵：火なわじゅうをばたりと取り落としました。</p> <p>色：青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。</p>
---	--

「ひとりぼっち」が表すごんの心情や状況、ごんの気持ちを読み取れることができる言動や様子、二人の関係性を示す位置関係、読者に物語の世界を味わわせる語り手、場面を鮮やかに想像させる色彩、音響や匂いといった感覚の語句など、様々な表現に気付かせ、豊かに想像しながら楽しく読む経験をさせたい。

②全文シート

登場人物の気持ちを表す表現に着目したり、物語の場面と場面を関連付けて考えることができるように、物語の場面ごとに区切ったワークシートを作成した。各ワークシートには行番号をふり、話し合いの際に注目したい表現や言葉がすぐ見付けられるようにした。また、余白を大きくとることで、人物の行動の意味や気持ちの変化について書き込み、自分の感じ方と友達の考え方が比べやすくなるようにした。

(3) 単元について（単元観）

本単元は、中心人物の言動と場面の描写に着目して読むことで、登場人物の気持ちの変化や性格、状況について、場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像しながら読む力の育成を目指した単元である。作品の初読で多くの人が感想としてもつであろう「ごんが撃たれてかわいそう」という感想も、その考えの基となる叙述はどこなのか、なぜそう感じたのかを交流すると、多くの根拠が示せることに気付くだろう。また、視点を変えることで、ごんの心情や行動、兵十の立場、すれ違う気持ちなどにも感想を広げていくことができる。読み終えた後の感想について、なぜそう感じたのか、理由や根拠を紐解き交流していく活動は、新たな発見や深まりを感じる読みにつながられるだろう。

物語を読み進める際には、変化していく兵十へのごんの気持ちを、場面の变化と合わせて読み取らせたい。工夫された表現が豊かに使われている本作品は、児童が今まで学習した様々な知識を生かし、新たな表現にも目を留めながら読み進めていくことができる。そこで、児童自身が作品に使われている表現の工夫に意識を向ける時間を設定し、自分が気になる語句について考えて交流する活動を行う。その際に、「なかったら（有無）」「べつの言い方（言い換え）」「やってみよう（動作化）」「思い出そう（経験の想起）」「意味はなに（辞書的意味）」等の視点を使って語句の吟味を行う。このやり方は、本単元以外でも、着目した語句の理解を助け、効果を検証する方法として習得を目指したい。

この学習を通して、今後の物語文を読む際に、自分から表現の工夫を味わい、作者の意図を想像しながら読み味わえる高学年以降の姿につなげていきたい。また、お互いの感じたことを伝え合う中で、それぞれの考えの違いにも気付かせていきたい。

4 研究主題に迫るために

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

本部会では、「言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくりと評価」を研究主題としている。本年度は、「読むこと」の領域の中で、どのように言葉の力を高めていくことができるかを考えていく。「読むこと」を学ぶ中で、正しく豊かに読み深め、感じ方が多様であることに気付くことに加えて、言葉のもつ働きにも意識を向けさせていく。言葉への関心を持ち、協働的に学びながら得た言葉の力を活用していくことで、言葉そのものの意味や働き、使い方を知り、言葉による見方・考え方を働かせていくことができると考える。様々な語句や表現の工夫に着目し、より深く物語を理解し味わう経験を通して、言葉そのものに対する関心も高めていけるだろう。これからの児童の読書生活、ひいては言語生活も豊かにしていくことにつなげていきたい。

児童は、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて読み進めながら、物語を読んで抱いた感想がどこから着想したものなのかを考え、交流をして読み深めていく。初めて読んで感じたことを基に、児童と共に学習課題や学習計画、単元名を決め、より主体的な学習を目指す。物語の叙述のどの語句に、どの表現の工夫に自分は心を動かされているのか、考えたり伝え合ったりしながら場面を読み進めていく。その際には、気になった語句をどのように考えればより理解できるのか、その方法も身に付けられるようにする。叙述を正確に理解することに加えて、言葉がもっている力に気付き、今後も楽しく読書していこうとする態度の育成を目指している。特に、「自分はどう感じたのかを感じながら物語を捉えること」「言葉のもつ働きに気付くこと」を、友達との交流を通じ、主体的に学ぶ姿を大切にしたい単元としたい。

(2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

①単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を設定した意図

物語を初めて読んだ感想は、個々様々である。印象的な出来事や行動の一つから受けた強い感情や、作品全体の内容や雰囲気、作品のもつテーマ、自身の経験との比較など、その根拠となる叙述も思考の経緯も多様なものとなる。読み深める中で多くの気付きが生まれるとともに、様々な表現の工夫や思考を促す語句が散りばめられている本教材の特徴を生かした学びが可能だと考えた。

感想の根拠を考え、言葉の力を全体で確認しながら物語を読み、深まった理解を基にして再度感想をまとめ、交流する。この活動により、叙述や語句を基に具体的に想像し、感想や考えをもって交流して、感じ方の違いに気が付かせたい。また、自分自身が、どの叙述や語句から、何を感じ取るのかを立ち止まって考えることで、言葉への理解や感覚の質を高め、語彙を豊かにしていくことができるだろう。物語を読み進める際にはどのようにして語句を吟味していくかの方法も体得を目指していく時間としたい。

読むことの指導を通して、読むことの力を高めると共に、知識・技能の育成も目指す単元となっている。そこで、知識・技能の指導を以下のように単元計画に位置付けた。文学的な文章を読む際にも、考えとその理由や事例を正しく捉えることが、叙述を基にして場面の様子を豊かに想像して読むことにつながる。本単元では、読むことの学習の中で、登場人物の言動、気持ちや性格を表す語句を捉えて想像することや、視点をもって物語全体を捉え、叙述を比較して考えることで、児童に情報と情報との関係について意識させ、語彙の量や質を高めることを目指した。

	出会う	親しむ	生かす	
	第1・2時	第3～9時	第10～11時	第12時
学習活動	物語を読み、感想を基に学習課題を考え、学習の見通しをもつ。	場面ごとに、登場人物の言動、気持ちや性格を表す語句に着目し、中心人物の心情の変化を捉える。	自分の感想を見つめ直し、どのような叙述から、どう考えたのかを話し合う。	単元の学習を振り返り、学んだことやこれからの文学的文章の学習について考える。
知識技能		(1)言葉 オ語彙 <u>様子や行動、気持ちや性格を表す語句</u> ひとりぼっち いたずら つぐない 引き合わない カ文や文章 <u>指示する語句と接続する語句の役割</u> (2)情報 ア情報と情報との関係 <u>考えと理由や事例</u> ひとりぼっちの小ぎつね おれと同じひとりぼっちの兵十 イ情報の整理 <u>必要な語句などの書き留め方</u>	(1)言葉 オ語彙 <u>性質や役割による語句のまとめ</u> (2)情報 ア情報と情報との関係 <u>考えと理由や事例</u> イ情報の整理 <u>比較や分類の仕方</u>	

具体的には、以下のような点を意識して指導する。

指導事項		具体的な内容
① 言葉の特徴や使い方に 関する事項	オ 語彙	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目し、物語全体を通して考える。 【第3～9時】 ○性質による語句のまとまりがあることを理解し、意識しながら物語を読み、その効果について興味をもつ。 【第1時、第10～11時】
	カ 文や文章	○指示する語句や接続する語句に着目し、その言葉があることで登場人物の心情や位置関係、語り手の存在やその効果が理解できることに気付く。【第3～9時】
② 情報の扱い方に 関する事項	ア 情報と情報の 関係	○考えとそれを支える理由や事例の考えを理解し、自分の考えについて、なぜそのような考えをもつのかを叙述を使って説明する。【第10～11時】
	イ 情報の整理	○自分の考えを表すために必要な語句や文章を、その目的から判断して書き留める。 【第3～9時】 ○作中において重要だと感じた複数の情報を、比べたり分類したりして整理する。 【第10～11時】

児童が文章を読む上で、表現に着目し、言葉への自覚を高めていけるようにするためには、文学的な文章の学習においても、「情報の扱い方に関する事項」に関わる内容を意識して指導していくことが必要である。文学的な文章における「情報」とは、叙述である。叙述を基に登場人物の心情の変化を捉えたり、表現の効果を考えたりすることで、言葉に着目して読む力を育てていくことができる。単元全体を通して、情報（叙述）と情報（心情）とを関連付けて考えることを大切にしていく。様々な叙述に着目し、そこから心情を捉えていくことで、より深く文学的な文章を読むことができるようになることを考えた。

豊かな語彙の拡充として、特に着目させたい語句は以下の通りである。

ア 登場人物の様子や行動、性格や心情を表す言葉

ごんの状況やその心情の変化を読み取る際には、「ひとりぼっち」という言葉がもつ意味や、兵十への共感を表す言動を読み取る必要がある。「飛び出して」「のび上がって」など、登場人物の行動を表す複合語は、よりその人物の心情を表すものとして着目させたい。直接的に心情が表されていなくても、行動や態度によって読み取ることができると気付くことで、今後物語を読む際にも、登場人物の気持ちを豊かに想像しながら読むことができるだろう。特に、この物語では「ひとりぼっち」という状況を表す語句が大きな意味をもつ。作品全体を通して、ごんの言動の根底にある感情を想像させる言葉として、また兵十とのすれ違いを生む重要な概念として、意識的に扱わせたい。

イ 読者に臨場感を与え、物語を深く味わわせることにつながる表現

豊かな色彩表現や音響表現などは、読者に臨場感を与え、作品を具体的に想像させる有効な工夫である。また、あえて書かれたその情景によって、登場人物の心境を物語る情景描写の考えへとつながるものである。また、「この物語は」から始まる語り手の存在が、物語がまるで現実にあったことかのように語られていく。「こちら」といった位置関係を表す指示語も、語り手によってごんの視点と読者の視点が寄り添う形になり、読者の共感を導く形になっている。

②主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

単元全体を、以下の三つの段階で構成した。

- 1 学習内容への方向付けをしながら学習材と出合う段階 【出合う】
- 2 学習材を繰り返し読んで考える親しむ段階 【親しむ】
- 3 読んで考えたことを表現活動につなげる生かす段階 【生かす】

【出合う】内容の大体と学習の流れを捉え、感想を書いて、学習課題と学習計画を立てる。

2学期の始めに行った読書感想文の学習や、日直のスピーチ原稿等を思い起こし、どんな感想をもつことがあったのかを交流し合う。「ごんぎつね」の教師の全文の範読を聞き、物語の大体を、挿絵等を活用して、場面を確認しながら捉える。どのような感想をもったのか、それはなぜだと考えるのか、初発

の感想として書き留める。感想の根拠が、主人公であるごんの言動や心情、ごんに起きた出来事による
ことが多いことに着目し、初発の感想を交流しながら、学習課題と学習計画を立てる。難解語句につ
いては、写真等を使って知識を得る。

・課題『どこから「(それぞれの感想)」と感じたのかを探しながら読み、話し合おう(仮)』

【親しむ】 作品を読み、ごんの気持ちの変化について、具体的に想像する。

場面ごとのごんの気持ちを、言動等の叙述から想像しながら読み取る。その際には、ワークシートの上
部の本文にサイドラインを引き、気が付いたことを下部に書き記す。叙述について、「なかったら(有
無)」「べつの言い方(言い換え)」「やってみよう(動作化)」「思い出そう(経験の想起)」「意味はなに
(辞書の意味)」等の方法を使って学級で確認し、想像を具体的にさせる。この5つの方法や、見付けた表
現の工夫については、学級内に掲示するとともに、児童のワークシートにも添付し、各場面の読み取り
の際に活用できるようにする。また、考えを交流する中で新たに気が付いたことについては、ワークシ
ートに書き加えていくようにする。登場人物の位置関係を押さえて、語り手の存在や語り手の視線の変
化にも気付けるようにする。各場面を読んだ後には、「この場面のどこから、「(それぞれの感想)」と感
じたのか」を振り返り、その時点での考えを書き留めていく。

【生かす】 読んで感じたことと、根拠となる叙述から考えられた理由をまとめ、交流する。

場面読みの中で気が付いた発見や自分の気持ちの根拠となる叙述を、ワークシートを基に読み返して、
この作品に対する自分の感想を文章にまとめる。その際には、単元の当初の感想と比べたり、作者が伝
えたかったことは何かという視点をもって考え直したりといったやり方も認め、自分に合ったやり方で
作品について考えをもてるようにする。似た考えをもっている者同士や、異なる考えに至った者同士で
考えたことを伝え合う。話し合った結果を生かして、自分が考えた「ごんぎつね」の作品の感想とその
根拠をまとめると共に、友達の考えを知って、感じ方の違いやそのよさに気付いていく。最後に、単元
で学んだことを整理して、次の学習への意欲を高める。

(2) 学習改善・授業改善につながる評価活動の工夫

①「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

単元構造図に、本単元で求める児童の具体的な姿を示す。総括的評価(記録に残す評価)と形成的評価
(指導に生かす評価)、評価方法をあらかじめ明確にして評価計画を立てることで、学習改善・授業改善に
役立てる。

②教師が指導の改善を図るための評価の工夫

座席型評価補助簿を用いて、児童の学習状況を把握するとともに、指導したい内容や本時での学習の様子
を記録する。それによって、児童個人の授業ごとの達成度とともに、一単位時間の学級全体の達成度を見取
ることができる。また、前時の目標を達成していない児童に対する指導や支援を充実させることができると
考える。補助簿は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を記録する3種類の
シートを使用し、それぞれの変容も意識して指導に当たれるようにした。

③児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

学習課題や単元の目標、単元名などを児童と作成するとともに、掲示して各時間に確認し、めあてに沿
った学習と振り返りが行えるようにする。ワークシートの振り返り欄を一覧にして、書く時に本単元の目
標と自分の過去の記述を振り返るように促す。振り返る際には、その時間のめあてにおいて、自分がめあ
てが達成できたか、学ぶ気持ちをもって取り組めたかどうかを、記号で簡易的に振り返り、学んだことや
気が付いたことを文章で書くようにする。よい振り返りを次時に紹介し、振り返りの仕方も共有して学ん
でいけるようにする。

	出会う	親しむ			生かす		
	第1・2時	第3・4時	第5時	第6～9時	第10時	第11時	第12時
総括的評価 (記録に 残す評価)	主体的	知・技	主体的	思・判・表	知・技	思・判・表	主体的
形成的評価 (指導に 生かす評価)		思・判・表 主体的	知・技 思・判・表	知・技 主体的	思・判・表 主体的	知・技 主体的	知・技 (次単元)

5 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
出 合 う	1	学習材の大まかな内容を捉え、感想を書く。 ・今までの学習を思い返す。 ・物語の範読を聞いて、内容の大体を捉える。 ・物語を読んだ感想と、物語のどこからそう感じたのかを考えて書く。 ・難解語句について、写真等を使って知る。	○今までに物語教材で学んできた作品や自分の好きな作品と、その感想を思い返す。 ○挿絵を拡大し、起きた出来事を確認する。	
	2	初発の感想から学習課題を設定する。学習計画を立て、単元名を考える。 ・お互いの初発の感想を交流する。 ・学習課題と学習計画、単元名を考える、単元末の言語活動について知る。	○ICT機器を活用し、感想を共有しやすくする。 ○感想の理由を見付けていくために、より詳しく叙述を読み取っていく目標をもつ。 ○今まで物語の学習で行っていた、登場人物の行動や心情を確かめる読み、場面を想像する読み、語句を吟味する読みを本単元でも行うことを確認する。	◆進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕 ★発言・ワークシート ・登場人物や物語全体についての自他の感じ方の違いを捉え、表現しようとしているかの確認。
親 し む	3	第一場面前半を読み、ごんはどんなきつねなのか、どんないたずらをしたのかを具体的に想像する。 ・ごんがどのようなきつねなのか分かる叙述に、サイドラインを引き、気が付いたことを下部に書き込んでいく。 ・気が付いたことを交流する。 ・「ひとりぼっち」という言葉がもつ意味や印象を話合う。 ・場面から感じる感想を意識しながら振り返りを行う。根拠となった叙述には赤線を引く。	○ワークシートの使い方を確かめる。 ○既習内容である「語り手」と指示語の働きについて思い起こす ○「ひとりぼっち」などの語句をより理解するための方法を確認する。 「なかったら（有無）」 「べつの言い方（言い換え）」 「やってみよう（動作化）」 「思い出そう（経験の想起）」 「意味はなに（辞書的意味）」 ○ごんのいたずらの内容から、村人にどのように捉えられているかを考える。	◆様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。〔知識・技能①〕 ★発言・ワークシート ・表現の効果や言葉の使い方に対する気付きの確認。

4	<p>第一場面後半を読み、ごんの気持ちを具体的に想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんの気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、気が付いたことを下部に書き込んでいく。 ・グループで検討し、学級で共有する。 ・場面から感じる感想を意識しながら振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○色や音響に着目して、場面の様子を具体的に想像する。 ○「うわあ、ぬすっとぎつねめ。」から、兵十など村人のごんぎつねへの見方を確認する。 ○「空はからっと晴れて」の情景描写からごん的心情が読み取れることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。〔知識・技能①〕 ★発言・ワークシート ・表現の効果や言葉の使い方に対する気付きの確認。
5	<p>第二場面を読み、気持ちを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返る。 ・ごんの気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、気が付いたことを下部に書き込んでいく。 ・グループで検討し、学級で共有する。 ・場面から感じる感想を意識しながら振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○色や音響、位置関係に着目して、場面の様子を具体的に想像する。 ○「ひがん花がふみ折られて」等の表現の工夫によって得られる臨場感について考える。 ○「～だろう」「～ちがない」と勝手に思い込んで、兵十へのいたづらを後悔するごん的心情を想像する。 ○自分で考え、書き込みをする時間を少し長めに取り、各自が考えをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕 ★発言・ワークシート ・表現の効果や言葉の使い方をふまえて、考えを表現しようとしているかの確認。
6 (本時)	<p>第三場面を読み、ごん的心情や行動を具体的に想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごん的心情が分かる叙述にサイドラインを引き、気が付いたことを下部に書き込んでいく。 ・グループで検討し、学級で共有する。 ・場面から感じる感想を意識しながら振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「おれと同じ一人ぼっち」、「つぐない」といった言葉について考えることで、ごん的心情を具体的に想像させる。 ○兵十への償いを始めるごんの様子や気持ちを具体的に想像するとともに、その行動の根底にある「おれと同じ一人ぼっち」というごん的心情に迫る。 ○複数の場面をつなぎ合わせて考えることを推奨する。 ○複合語、指示語等によってごんの動作がより具体的に想像ができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔思考・判断・表現①〕 ★発言・ワークシート ・表現の効果に対する気付きの確認。

7 8	<p>第四、五場面を読み、ごんの気持ちや行動を具体的に想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんの気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、気が付いたことを下部に書き込んでいく。 ・グループで検討し、学級で共有する。 ・場面から感じる感想を意識しながら振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「かけぼうしをふみふみ」等の距離や位置関係の表現に着目して、場面の様子を具体的に想像する。 ○自分の存在に気付いてほしいと願い、「引き合わない」と落胆しながらも償いを続けるごんの気持ちを想像する。 ○グループ内で、動作化をしたり具体的に想像したりする活動を推奨する。 ○グループでの時間を少し長めに取り、友達と表現の検討をすることで考えを深められることに気付けるようにする。 	<p>◆「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 〔思考・判断・表現①〕</p> <p>★発言・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果に対する気付きの確認。
9	<p>第六場面を読み、ごんや兵十の気持ちや行動を具体的に想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんや兵十の気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、気が付いたことを下部に書き込んでいく。 ・グループで検討し、学級で共有する。 ・場面から感じる感想を意識しながら振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語り手の視点の変化や位置関係、呼び方による関係性の変化に着目して場面の様子を具体的に想像する。 ○兵十の目線の動きから兵十のごんに対する気持ちに迫る。 ○兵十の呼び掛けにうなずくごんの気持ちを想像する。 ○学級の時間を少し長めに取り、自分たちで話し合いが深められるように促す。 	<p>◆「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。〔思考・判断・表現②〕</p> <p>★発言・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果に対する気付きや、自分の感じ方への気付きの確認。
生 か す	10	<p>作品に対する感想とその理由に着目して、作品全体を読み返し、気が付いたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの場面読みのワークシートを見直して、作品全体から考えられるようにする。 <p>◆様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。〔知識・技能①〕</p> <p>★発言・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果や言葉の使い方に対する自分の感じ方への気付きの確認。
	11	<p>感想とその理由に着目して考えたことをグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ視点の友達同士や、異なる視点の友達同士で、意見を交流する場をもつ。 ・発見したことを書き加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○似た感想をもったグループで話し合った後に、メンバーを変えて伝え合うことで、お互いの発見を広め合えるようにする。 <p>◆「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。〔思考・判断・表現③〕</p> <p>★発言・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や物語全体と自他の感じ方に対する気付きの確認。

12	<p>自分が考える「ごんぎつね」の物語についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを基にして、「ごんぎつね」のどの部分から、自分はどう感じたのか、説明する文章を書く。 ・学習課題を振り返り、学んだことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1時の感想と比べながら考えが書けるようにワークシートを振り返らせる。 ○物語を読むときの表現の工夫について、学んだことやこれから生かしたいことを考えて交流する。 ・教科書P32の「たいせつ」を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って中心人物の思いや考えを表現しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕 ★発言・ワークシート ・登場人物や物語全体についての自分の感じ方の根拠を捉えて表現しようとしているかの確認。
単元後	<ul style="list-style-type: none"> ・語句や表現の工夫に着目し、様子を具体的に想像しながら物語を読もうとする。 ・作品に対して様々な考え方や感じ方があることを思い、お互いに意見を交流しながら読もうとする。 ・気持ちや性格、様子を表す言葉の語彙を増やし、自分が表現するときにも使おうとする。 		

6 本時の学習（第6時/全12時間）

(1) 本時のねらい

叙述から中心人物の気持ちや行動について読み取ってその変化に気付き、変化の理由を考える。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ごんの気持ちを思いや行動から読み取って、話し合おう </div>		
2 微音読をする。		
3 ごんの気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、気が付いたことを書き込む。	○「おれと同じ一人ぼっち」、「つぐない」といった言葉について考えることで、ごんの気持ちを具体的に想像させる。	
(1) 気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、気が付いたことを書き込む。(個人)	「おれと同じ→いいことをした→しまった→かわいそう→ごめんね」	
(2) 気が付いたことや考えについて、叙述を根拠にして検討する。(グループ)	○「まず一つ、いいことをした」「どっさり拾って」「そっと」「次の日も、その次の日も」「その次の日には」「松たけも持って」という言葉に着目して、兵十への償いを始めるごんの様子や気持ちを具体的に想像するとともに、その行動の根底にある「おれと同じ一人ぼっち」というごん的心情に迫る。	
4 気が付いたことについて、なぜそう考えたのか、叙述を根拠にして学級全体で共有する。	○複数の場面をつなぎ合わせて考えることを推奨する。 ○複合語、指示語等によってごんの動作がより具体的に想像ができることを考える。 ○気が付いたことについて、なぜそう考えたのか、叙述を根拠にしてグループで検討できるようにする。	◆「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。〔思考・判断・表現①〕 ★発言・ワークシート
5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	○「言葉をより理解する5つの方策」を用いることを伝える。	○ <u>おおむね満足できる児童への次時以降の手立て</u> この場面で注目すべき言葉に焦点化させ、複数の叙述を組み合わせて、場面をつないだりして考えるように声を掛ける。
		○ <u>おおむね満足できる状況を目指す児童への次時以降の手立て</u> この場面で注目すべき言葉は何かを意識できるように、本文を読み返させる。

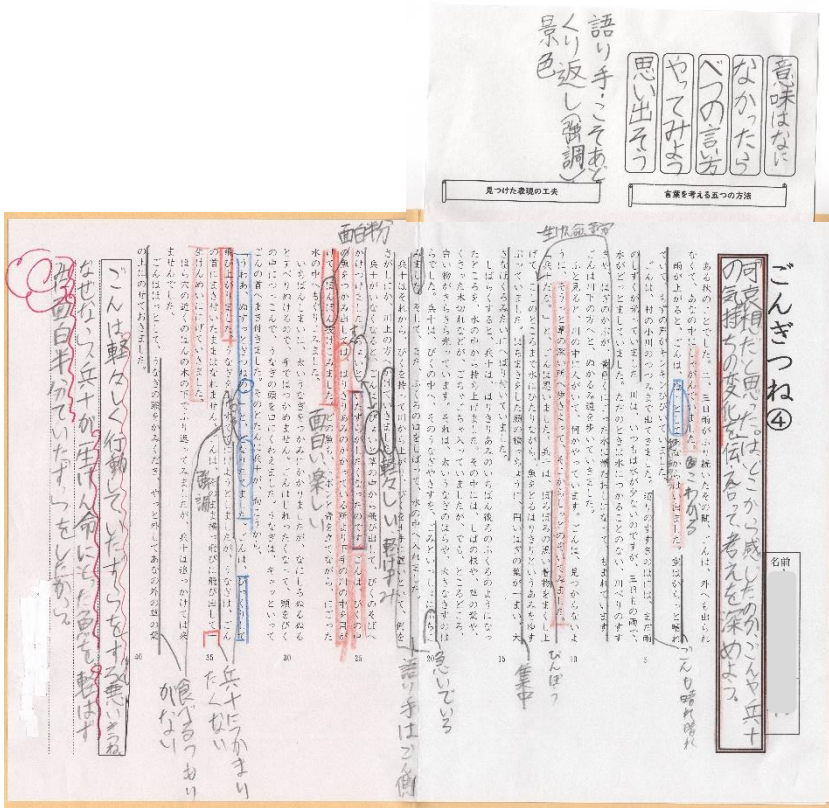
7 資料

【第2時に児童とともに決めた単元名および学習課題】

単元名：「感想を比べてみよう『ごんぎつね』」

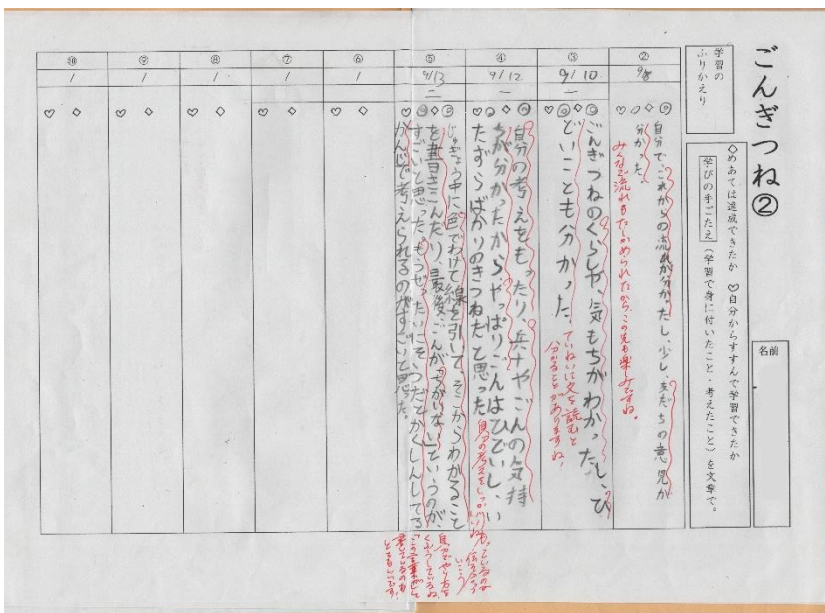
学習課題：「感想がちがう理由をさぐるために、登場人物の気持ちや行動を読み取って話し合おう。」

【児童のワークシートによる評価】例は小研時の第4時のワークシート



〔知識・技能①〕はワークシートのサイドライン及び下部の書き込み内容と、左部の感想、振り返りの記述(◇)で評価した。
 ここでは、ごんの様子や行動を表す言葉からその行動の意味に気付き、自分の感想を表している児童を「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。

〔思考・判断・表現②〕はワークシート左部の感想及びその理由と振り返りの記述(♡)、第10時の感想のまとめによって評価する。
 ごんの様子や行動を表す言葉を自分の感想の根拠として、場面の移り変わりや結び付けたり具体的に想像したりして示している児童を「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。



〔主体的に学習に取り組む態度〕と〔思考・判断・表現③〕は、授業中の発言及びワークシートの振り返りの記述(♡と★)によって評価した。
 学習の計画に沿って自己の学びを把握し、分かったことや気が付いたこと、今後取り組みたいことなどを振り返りとして記載している児童を「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。